

新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン

2022年12月24日
京都府バドミントン協会

日本バドミントン協会が策定した「新型コロナウイルス感染症対策に伴うバドミントン活動ガイドライン（3章バドミントン競技大会・イベント実施にあたって）」を参考に、京都府バドミントン協会は、表記大会を開催するにあたって以下の感染防止対策を策定しました。

1 大会全般について

- (1) 大会主催者は本部に感染対策責任者を設置する。
- (2) 参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合や地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合の対応については、保健所等の関係機関と連携して対応する。
- (3) 万が一感染が発生した場合には、保健所等関係機関からの要請に従い、感染拡大防止に協力する。その際、個人情報の取り扱いには注意する。
- (4) 消毒等感染防止に必要な物品は大会主催者で準備する。
- (5) 新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、速やかに関係機関（所属チーム責任者、京都府バドミントン協会事務局）に、濃厚接触者の有無等も含めて報告すること。
- (6) 今大会は「無観客試合」とし、会場に入場できるのは、選手、監督、コーチ、及び大会役員のみとする。

2 大会関係者（選手、監督、コーチ、大会役員）について

(1) 全員に対して

- ① 参加団体(チーム)責任者(監督)は、大会参加者全員の、参加日2週間前までに以下の項目についての該当の有無を確認し、別紙の「京都府バドミントン協会 大会・講習会参加関係者 健康状態確認シート(団体(チーム)用)」に必要事項を記入して大会本部に提出する。

○体調管理

- 1 その日の体温(0.1℃単位の数字を記入)
- 2 平熱を超える発熱(37.0℃以上)
- 3 風邪に似た症状の有無(咳(せき)、のどの痛み等)
- 4 味覚・嗅覚の異常の有無
- 5 倦怠感(だるさ)、息苦しさ(呼吸しづらい)

○人との接触

- 6 コロナ陽性者との接触の有無

- 7 家族や近親者、知人で感染が疑われた人との接触の有無
 - 8 入国制限や入国後の観察期間を必要とされている国、地域への渡航の有無
 - 9 8の国、地域の在住者、渡航者との接触の有無
- ② 大会本部は①のシートを管理し、必要に応じて会場管理者等関係機関に提出する。
 - ③ 「健康状態確認シート」の項目で「有」に該当する場合は、関係機関(医療機関、学校長、保健所等)の判断を仰ぐこと。
 - ④ 手洗い・消毒・うがいの励行、咳エチケット、マスク持参と試合時以外の着用を行う。
(特に、試合後や準備後等不特定多数の人が触るような物に触れた後には手洗い・消毒を行う)
 - ⑤ 外履きは袋に入れ自分で管理し、下駄箱は使用しない。
 - ⑥ 更衣室、トイレの使用については密を避けるよう各自が心がけて利用する。(会場のガイドラインが定められている場合はこれを遵守すること)
 - ⑦ 観戦は、指定された場所や席で、横並びに座る、人との距離をとるなどの対策を行い、席を移動しない。また、応援は、声援を不可とし、拍手等で行う。
 - ⑧ ゴミは全て持ち帰ること。特にマスク、制汗シート等はビニール袋に入れて持ち帰り、自宅で処分すること。
 - ⑨ ①の「京都府バドミントン協会 大会・講習会 参加関係者 健康状態確認シート (団体(チーム)用)」は京都府バドミントン協会ホームページに掲載していますので、印刷してお使いください。

(2) 選手に対して

- ① ウォーミングアップは距離を空けて行い、声は出さないこと。
- ② コートへの入場はコールされてから入場する。移動については2m以上の間隔を空け、速やかに行うこと。
- ③ コートサイドにはカゴやトレイ等を設置しないので、ドリンク等はバッグ等に入れて持参すること。ドリンクをこぼした場合は、モップでふき取ること。(自分のタオルは使用しない)
- ④ ラケット、タオル等の貸借はしない。
- ⑤ 汗をコート内やコートサイドに投げない。
- ⑥ シューズの裏を手で拭かない。
- ⑦ 意識的に試合中の声出しをしない。
- ⑧ 自身の試合・役割(敗者審判等)が終了したら、観戦や応援をせず、速やかに帰宅すること。

(3) 監督・コーチに対して

- ① 選手に対して、規則的な生活、十分な睡眠、適度な休養、バランスのとれた食事等の健康指導を行う。
- ② 「健康状況確認シート」を活用し、毎日の検温を含む健康チェックを指導する。
- ③ プレーヤーとハイタッチ等の接触をしない。
- ④ コーチングは一定の距離を保ち、必要最小限に短時間で行う。

- ⑤ ミーティングはできるだけ行わない。やむを得ず行う場合は「3密」を避けること。

3 大会運営面について

(1) 入場について

- ① 出入口についてはドアを常時開放する。
- ② 開場時に人数を区切って入場させる。(来場時間の分散等を行う)

(2) 大会本部及び関係者控室について

- ① 大会本部の設置は、密を避けるように設置し、適切な運営スペースを確保する。
- ② 関係者控室は、できるだけ多くの部屋を確保し、密を避けるようにする。確保が難しい場合は、利用人数の制限を行うなどを行う。
- ③ 常時、窓や扉を開放する。難しい場合はこまめに換気を行う。
- ④ 運営物品や共用物等は、定期的に消毒を行う。

(3) 受付、及び試合進行について

- ① 本部席にはアルコール等の手指消毒剤を準備する。また席は1席以上空ける。
- ② 人が対面する箇所には、遮蔽物(アクリル板やビニールシート等)を設置する。
- ③ 共用物品は定期的に消毒を行う。
- ④ 受付、進行業務にあたる場合で遮蔽物が設置できない場合は、プログラムや関係資料、審判用紙やシャトル等の物品は机の上に置いて受け渡しするようにし、直接受け渡ししない。
- ⑤ 参加者が距離をおいて並べるように目印をつける。
- ⑥ 発熱や咳など体調不良のある人の入場制限を行う。(必要に応じて検温)
- ⑦ 開会式、閉会式は行わない。

(4) 競技会場について

- ① 遮光性に配慮の上、可能な限り窓や扉を開放して行う。開放ができない場合は、定期的に十分な換気を行う。(換気のタイミングや換気時間等は事前に周知する)
- ② 熱中症対策として、暑い時期は空調を入れる。
- ③ 会場準備については、人数制限や役割分担を行う等、「密」にならないよう工夫して準備を行う。(会場職員や大会役員の指示に従って行うこと)
- ④ コートサイドには、選手が使用するカゴやトレイは設置しない。(選手は各自バッグを持参させ、飲み物も各自バッグに収容させる)
- ⑤ コーチ席は1席、または設置しない。
- ⑥ コートのモップ掛けをゲーム毎と毎試合終了後に行う。
- ⑦ 毎試合終了後、審判台や線審席、コーチ席や得点板等を消毒する。

(5) 競技中について

- ① 審判員もマスクを着用する。(適宜水分補給を行う等熱中症に注意する)
- ② 選手同士や審判員との握手は行わない。

- ③ トスはフィジカルディスタンス（2 m以上の距離）を確保して行う。
- ④ 主審のコールは必要最小限（「プレイ」「フォルト」「レット」「ゲーム」等のみ）とし、線審は、指定の合図を行い、コールをしない。また、主審は得点板がある場合はポイントのコールをしない。
- ⑤ シャトルの交換は、選手がシャトルを直接筒から取り出すか、選手が一定の距離に来たら、投げて渡す。交換は回収ボックス等を用意し、直接触れないようにして交換する。

（6）観戦・飲食について

- ① 観戦は、指定された場所や席で、横並びに座る、人との距離を取るなどの対策を行い、席を移動しない。また、飲食については密にならず、周囲の人とは対面を避け、会話は控えめにすること。
- ② 応援は、声援を不可とし、拍手等に限定し、指定された場所や席で、横並びに座る、人との距離を取るなどして、指定した席で行う。席を移動しての応援や、手すりからの応援はしない。
- ③ 選手のプレイの妨げになるので、フラッシュ撮影は行わないこと。

（7）ゴミの処理

- ① 個人、チームで出たゴミはすべて持ち帰る。
- ② 大会運営上発生したゴミは、マスク、手袋をした上で回収し、破棄する。作業後は必ず手洗いし、手指の消毒を行う。

4 その他

- （1）大会本部は、大会関係者から感染者が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意し、大会当日に大会関係者から提出された書面や大会申込用紙を1か月以上は保管し、速やかに確認・提出可能な状態にしておく。
- （2）熱中症対策にも十分に配慮することとし、水分補給を行うときは、各自の水筒やペットボトル、使い捨て紙コップなどを用意し、飲み回しなどを行わないようにする。
- （3）会場独自のガイドラインが定められている場合は、本ガイドラインを踏まえた上で、これを遵守する。
- （4）各チームにおける感染防止対策については、併せて講ずること。